



対がん協会報

1部70円(税抜き)

第625号

2015年(平成27年)
7月1日(毎月1日発行)

公益財団法人 日本対がん協会 「日本対がん協会」と「対がん協会」は登録商標です
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町センタービル(マリオン)13F
☎(03) 5218-4771 <http://www.jcancer.jp/>

主な内容	1面	2014年厚労省人口動態統計
	3面	ピンクリボンインタビュー 大西秀樹先生
	6、7面	グループ支部がん検診 実施状況より

がんによる死亡は36万7943人 前年より3071人増

膵臓・大腸・肺が目立つ増加 2014年厚労省人口動態統計(概数)

厚生労働省は6月5日付で、平成26年(2014年)の人口動態統計を発表した。それによると昨年1年間にがん で亡くなった人は36万7943人で、前年より3071人増えたことがわかった(2014年は概数、前年は確定数)。

全体の死亡数は127万3020人で戦後最多。一方、出生数は100万3532人と、平成23年から4年連続で減少した。全死亡者の28.9%、およそ3.5人に1人ががんで亡くなったことになる。

主な死因別の年次推移をみると、がんは昭和56年以来一貫して死因順位の第1位を続けている。ちなみに第2位は心疾患の19万6760人(全体の15.5%)、続いて肺炎11万9566人(9.4%)、

脳血管疾患11万4118人(9.0%)と続く。平成23年に肺炎と脳血管疾患の順位が入れ替わって以来、順位は変わっていない。

がんの部位別にみると、膵臓がん、大腸がん、肺がんの増加が目立つ。膵臓がんは3万1692人で昨年より1020人も増えている。大腸がんは4万8461人で同じく807人、肺がんは7万3373人で639人の増加となった。

男女合わせての部位別の死亡数は、多い順に1位が肺がんで7万3373人、2位が胃がんを抜いて大腸がんの4万8461人、3位が胃がんで4万7890人となった。以下、膵臓がん3万1692人、肝臓がん2万9528人と続く。

さらに男女別に部位別のがんの死亡数をみると、男性では肺がんが最も多くて5万2493人、次いで胃がんが3万1472人、大腸がん2万6164人、肝臓がん1万9197人となった。増加が目立つのは肺がんと大腸がんで、肺がんは昨年より439人、大腸がんは356人、それぞれ増加した。

女性の方は大腸がんの死亡数が一番多く2万2297人、次いで肺がんの2万880人、胃がん1万6418人、乳がん1万3234人と続く。増加数が著しいのは男性と同じく大腸がんで前年より451人増えている。また、死亡数は6428人で6番目の子宮がんも前年より395人と増加が目立つ。

主な部位別にみたがんによる死亡数 = 厚生労働省の人口動態統計より、2014は概数、他は確定数

		部 位	1965	1975	1985	1995	2005	2011	2012	2013	2014
死 亡 数	男	胃	28,636	30,403	30,146	32,015	32,643	32,785	32,206	31,978	31,472
		肝	5,006	6,677	13,780	22,773	23,203	20,972	20,060	19,816	19,197
		肺	5,404	10,711	20,837	33,389	45,189	50,782	51,372	52,054	52,493
		大腸	3,265	5,799	10,112	17,312	22,146	24,862	25,529	25,808	26,164
女	胃	17,749	19,454	18,756	18,061	17,668	17,045	16,923	16,654	16,418	
	肝	3,499	3,696	5,192	8,934	11,065	10,903	10,630	10,359	10,331	
	肺	2,321	4,048	7,753	12,356	16,874	19,511	20,146	20,680	20,880	
	乳房	1,966	3,262	4,922	7,763	10,721	12,731	12,529	13,148	13,234	
	子宮	6,689	6,075	4,912	4,865	5,381	6,075	6,113	6,033	6,428	
		大腸	3,335	5,654	8,926	13,962	18,684	20,882	21,747	21,846	22,297

がん相談ホットライン 祝日を除く毎日
03-3562-7830

日本対がん協会は、がんに関する不安、日々の生活での悩みなどの相談(無料、電話代は別)に、看護師や社会福祉士が電話で応じる「がん相談ホットライン」(☎03-3562-7830)を開設しています。祝日を除いて毎日午前10時から午後6時まで受け付けています。相談時間は1人20分まで。予約は不要です。

医師による面接・電話相談(要予約)
予約専用 03-3562-8015

日本対がん協会は、専門医による面接相談および電話相談(ともに無料)を受け付けています。いずれも予約制で、予約・問い合わせは月曜から金曜の午前10時から午後5時までに☎03-3562-8015へ。相談の時間は電話が1人20分、面接は1人30分(診療ではありません)。詳しくはホームページ(<http://www.jcancer.jp/>)をご覧ください。

対がん協会グループ全国事務局長会議 厚労省正林課長と島根県支部岡事務局長が講演



全国から集まった事務局長の皆さん

対がん協会グループの2015年度全国事務局長会議が、6月29日に東京・千代田区の有楽町朝日スクエアで開催された。全国のグループ支部事務局長や本部職員など70名近くが一堂に会し、講演や情報交換が行われた。

当日は厚生労働省健康局がん対策・健康増進課課長の正林督章氏が「日本のがん対策—がん検診のあり方について」と題して講演を行った。正林課長はホットなテーマとして、先週まとまったばかりのがん対策推進基本計画の中間評価について詳しく解説した。同計画の10年目標であるがんによる死亡者の減少目標20%が達成できなさそうな予測も出ており、喫煙率減少、がん検診受診率向上などへ向けた一層の対策が必要だと語った。また、がんの身体的、社会的な深刻さ、検診の有効性が理解されていない現状を打開す

るため、がんの教育や普及啓発、がん患者が抱える社会的苦痛の緩和などの取り組みを一層推進することが重要と説明した。

今後のがん対策については、第2期がん対策推進基本計画後に「がん対策加速化プラン」を策定し、予防、治療・研究、共生を3本柱として世界に誇る健康長寿大国の確立を目指すと言った。

続いて島根県支部(島根県環境保健公社)の岡真二理事・事務局長が「島根県がん教育出前授業への参画について」と題して、島根県支部のがん教育の取り組みを紹介した。岡氏は昨年江津市と松江市で実施した二つの出前授業の事例を紹介し、今後がん教育を受診率向上につなげるために子どもの発信力に期待していると話した。また、授業内容の検討や子どもに伝えるための工夫、授業の効果測定などが課題だと語った。

会場からは、「がん患者の話を聞いた子どもたちの反応は」とか、「自分も医師だが、いざ授業をするとなるとどの学年にはどのレベルでどの程度の内

容を教えたら良いのかとまどう。本部で何らかのガイドラインを作って欲しい」などの意見がでた。それを受けて日本対がん協会の塚本章人常務理事が、「協会としてもがん教育には強力に取り組んでいく。学習指導要領の改訂を視野に、がん教育で頼りになるのは支部という流れをぜひ作っていきましょう」と力強く呼びかけた。

出席者のうち新任事務局長の方々は以下のとおり。

◇相澤信之(北海道支部)、三浦敦(岩手支部)、佐藤秀寿(福島支部)、高橋浩一(栃木支部)、中野厚夫(千葉支部)、八百健雄(神奈川支部)、加藤薫(静岡支部)、小林潔(三重支部)、森藤勝彦(奈良支部)、米本幸寿(鳥取支部)、藤本恭弘(徳島支部)、小島英二(福岡支部)、伊藤敏明(熊本支部)、矢野雅博(宮崎支部)



講演する正林課長

就任のご挨拶 日本対がん協会 理事兼事務局長 坂野康郎



坂野康郎

その直後の29日には、46道府県支部の幹部が集まる全国事務局長会議が開かれ、「頼みますよ」との声をかけられました。身が引き締まる思いです。

事務局長会議の当日、当協会の「2015 活動のご案内」という冊子が仕上がりました。冊子冒頭に垣添忠生

会長が挨拶で述べているように、がんは今や「国民最大の敵」といって過言ではありません。協会としては3つの重点施策を掲げて臨もうと思います。

まず検診の推進です。全国の対がん協会支部では年間延べ1100万人ががん検診を受けていますが、それでも国内のがん検診率は欧米に比べて低い水準にとどまっています。検診率をいかにしてさらに引き上げるかが課題です。

二つ目に患者支援です。協会が受ける無料がん相談件数は1万件を超えています。これをさらに充実させ、がん患者向けセミナーも様々な形で展開する必要があります。そして、がん教

育。近い将来、学習指導要領にがん教育がしっかり位置づけられることと思いますが、協会としても、すでに各学校で展開されるモデル授業のサポートや副教材提供など、今後も惜しみない支援をしたいと思っています。

課題は山積です。少しも立ち止まっている余裕はありません。がん征圧という大きな目標に向けて、微力ですが尽くしたいと思います。

(さかの やすろ 兵庫県出身。京都大卒。朝日新聞社入社後、社会部、秋田総局長、ブランド推進本部長補佐など歴任。2015年5月から日本対がん協会勤務。58歳)

ピンクリボン インタビュー

心は成長すると信じて

埼玉医科大学国際医療センター 精神腫瘍科教授 大西秀樹

がん患者や家族への心のケアが注目されている。ピンクリボンフェスティバルで実施しているセミナーやシンポジウムでも、昨年度から新たなテーマに加えたところ、事後のアンケートでもぜひもっと知りたいという声が多く、改めて関心の高さを伺わせた。早くからがん患者の心のケアに取り組む、昨年の関西セミナーに引き続き、今年は神戸シンポジウムで講師を務めていただく精神腫瘍科医の大西秀樹先生に、がん患者や家族への心のケアの大切さについてお話を伺った。

——心のケアが必要ながん患者さんはそんなに多いのですか

約半数のがん患者さんに不安やうつなどの何らかの精神症状があります。本人はもちろん家族も、突然生活が変わってしまう不安にさいなまれてうつっぽくなってしまいます。特にがんを告知された直後のショックは大きく、告知から一週間以内に自殺するリスクは12.5倍、心血管障害を起こすリスクは5.6倍高まるという海外のデータもあるぐらいです。

大体2週以降から通常レベルに戻っていくのですが、戻らず何らかの精神科の診断のつく人が半数ぐらいいます。対応を間違えると自殺につながることもあり、また、本来のがん治療もうまくいかなくなってしまう。僕がこの領域に入ったのも、内科や外科の同僚が困って「診てくれないか」と頼まれたのがきっかけなんです。だから僕たちの目標はがんの先生が治療しやすいように連携して、患者さんが適切ながんの治療を受けられるようにすることなんです。

——具体的にどんな治療をするのでしょうか

話を聴きます。もちろん、ただ聴くだけでなく、その中で何が問題なのかをはっきりさせ、理解する。そして解決できそうなことは一緒に考えて解決していきます。がん治療担当の先生と

も連絡を取り合い、薬の種類や量を調整したり、精神状態によってはがんの治療のタイミングを少し待ってもらったりという事もします。

——がん患者ならではの困難さや特徴というところ

うーん。がんはねえ。やはり死と結びついてしまうのが特徴ですね。がんのことを慢性疾患と言う医療者もいますけど、当の本人はどうしても死に直結してしまうんですね。まして乳がん患者さんの場合は若いでしょ。子どもの問題とかあると、本当に死ぬに死ねないという感じで。治っても再発の心配はあるし、がんとは長い間付き合わなくてはならないし。

——乳がんの患者さんは多いのですか

外来は8割が乳がんですね。やはり乳房を失ったことによる喪失感や再発の不安、病気になってからの時間が長いことが大きいです。加えて近頃は治療法の選択肢が多くなって自己選択があるでしょ。特に再発の患者さんの場合は、本当にあの治療法でよかったのかという後悔にさいなまれている人が多いですね。

——そんな時はどうするのですか

埼玉医科大学国際医療センターでは集団精神療法というものを行っています。患者さん同士がグループになってざっくばらんに話し合うんです。僕はほとんど黙って座っているだけ。自分の気持ちを素直に話すことが回復につながるのです。患者同士「どうしてあなた、死ぬの怖くないの？」なんて聞いてますよ。4か月ぐらい泣きっぱなしだった人が、「がんになったのは悔しいけれど、自分のまわりの幸せに気付いた」なんて言う。本当に驚かされます。辛そうにしている患者さんにもこの話をすることはあります。そして、「今は納得いかないだろうけど自分が成長することを信じて」と話しています。

よく辛い仕事で大変じゃないですか



気さくな語り口の大西先生

って聞かれるけど、僕は信じているから。心は成長すると。人間の変わる力を信じているので辛くなくなりました。

——信じてくれない患者さんもありますよね。

もちろん。もちろん。いわゆるラ・ポールの取れない患者さんは大変です。でもまだ来てくれている人はいいんです。まず精神腫瘍科外来に来てもらうまでが本当に大変なんです。東京の人は割と敷居が低いんだけど、地方はまだまだ。その上、がんという病気自体が忌み嫌われるイメージが根強く、そこが心筋梗塞や他の病気との大きな違いなんです。だからぜひ、ピンクリボンや色々な機会を通じてがんの正しい情報を周知して、がんの間違ったイメージを変えることが大切なんです。

——今後の課題は

精神腫瘍科外来の存在をもっと知ってもらいたい。ようやく各地のがん拠点病院に精神科医が常駐するようになってきましたので、ぜひ皆さんに知ってもらって、気軽に来て欲しいです。

埼玉医科大では遺族外来という遺族のための外来もありますし、家族ももちろん保険診療ができます。患者本人でも、遺族の場合でも女性はまだ来てくれるけど、男性は一人で抱え込んで苦しんでいる人が多い。男性のケアも今後の課題ですね。

Topics

海外奨学医募集 米テキサス大MDアンダーソンがんセンター・シカゴ大学医学部で1年間研修

日本対がん協会は7月1日付で、米国テキサス大学MDアンダーソンがんセンター(以下MDアンダーソン)ならびにシカゴ大学医学部(以下シカゴ大)において、1年間研修を受ける若手医師の公募を始めました。

MDアンダーソンがんセンターは開設以来74年余の歴史を有し、全米No.1と評されているがん専門医療施設です。一方、シカゴ大学医学部は、88年の歴史の中で、ノーベル医学・生理学賞を11人輩出した全米屈指の大学です。いずれの施設も、基礎と臨床が融合した臨床研究を推進し、世界のがん医療を牽引しています。

本年度の募集人数は、MDアンダーソンに2人、シカゴ大は1人です。奨

励金として1人250万円を支給します(渡航費を含む)。締め切りは平成27年10月31日(消印有効)です。多くの方々の応募をお待ちしています。

このプログラムは、「RFLマイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞」と名付けた奨学制度で、日本での臨床試験の推進および、地域がん医療の拡充に貢献できる若手医師の育成が目的です。MDアンダーソンの協力と、一般社団法人オンコロジー教育推進プロジェクトの支援を受けて、MDアンダーソンの上野直人教授のアドバイスのもとに、2010年度にスタートしました。

運営の資金は、がん征圧・患者支援の「リレー・フォー・ライフ」に寄せられる寄付です。がん患者・家族の方々

の支援には、がん医療を充実させることが重要です。

米国で学んだことを日本の各地の実情に応じて工夫し、患者中心の医療を根付かせてほしい、そんな願いをこめています。

希望者は日本対がん協会もしくはリレー・フォー・ライフの公式ホームページから申請書をダウンロードし、必要事項を記入したうえで、下記に郵送してください。

〒100-0006東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン13階
公益財団法人 日本対がん協会 海外奨学医助成審査委員会宛
お問い合わせは03-5218-4771(岡本)まで。

「RFLプロジェクト未来」のポスターが完成



完成したポスター

新しい治療法や新薬開発などへ向けた研究に資金を助成する「プロジェクト未来」。その募集告知ポスターを名古屋デザイナー学院の学生さん達が制作してくれた。完成までに1か月を費やした作品はどれも力作ぞろい。その中から最優秀賞には2年生の大田紗也香さんの作品が選ばれた。

大田さんは「受賞したと知ったときは、嬉しさのあまりその場で泣きそうになってしまいました。ポスター作りは、まずがんと診断された方々やその

ご家族の思いを調べるところから始まりました。その過程で多くの方々ががんと診断されて絶望することを知りました。『なぜ自分が』、『もうだめだ』などという思いを知るうちに、私はこの絶望を少しでも無くせたらと思い今回の作品を制作しました。この作品が少しでもお医者様たちの目に留まり、思いを届けることができたら幸いです」とコメントを寄せてくれた。ポスターは全国のがん拠点病院などで掲示される予定。

祝 P-1グランプリで「モモちゃんバッジ」が優勝



表彰式でのモモ妹と中村乳癌学会長(右)、坂野日本対がん協会事務局長(左)

際フォーラムで開かれた第23回日本乳癌学会学術総会(会長:中村清吾昭和大学教授)で、P-1(ご当地ピンクリボンバッジ)グランプリが実施された。64団体がエントリーする中、ピンクリボンフェスティバルが制作した「モモちゃんバッジ」が団体部門で優勝した。

3日夜の表彰式には日本対がん協会・坂野康郎事務局長とフェスティバルの公式メッセンジャー・モモ妹が出

席。会場からの大きな拍手で祝福された。同部門3位には島根県支部のバッジも選ばれた。

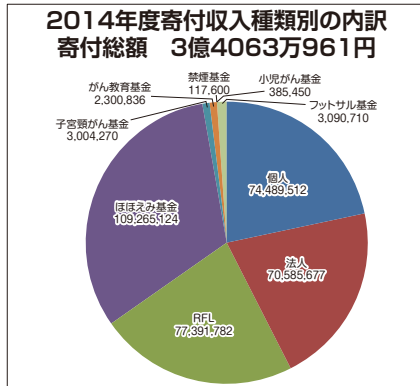


優勝した「モモちゃんバッジ」

7月2日から東京千代田区の東京国

Topics

2014年度の寄付総額は3億4063万円



日本対がん協会に寄せられた2014年度の寄付総額は3億4063万円となり、残念ながら2013年度の寄付総額の4億7312万円を大きく下回りました。2013年度にいただいた1億円のような大口の個人寄付がなかったことが影響したと言えます。

寄付の内訳を見ると、使い道を指

定した基金の中では「乳がんをなくすほほえみ基金」の寄付収入が好調で、全体の3分の1に当たる1億926万円となりました。企業との提携型の寄付が相変わらず多く、安定した寄付となっています。日本対がん協会などが主催しているピンクリボンフェスティバルの効果もあり、乳がんへの理解が進んだ結果と思われます。今年度から禁煙基金はがん教育基金に統合し、フットサルリボン基金と小児がん基金は休止しました。

「リレー・フォー・ライフ」による寄付は、開催会場数が43会場となり、実行委員会から寄せられた寄付と、企業や個人からの寄付を合わせて約7千739万円と昨年よりやや増えました。寄付は引き続き若手医師の国内外への

奨学制度や、研究への助成、がん相談などに活用していきます。

法人寄付は例年並みで約7千58万円。個人寄付はとびぬけた大口寄付はありませんでしたが、3800万円の寄付もあり7千448万円となりました。

2014年度はここ数年続いていた法人や個人の大口寄付の件数が減ったこともあり、寄付総額は4億円に届きませんでした。がん征圧活動に対する社会的ニーズはますます高まっています。幅広い活動を行っていくためには、一層の安定した継続的な寄付が必要です。引き続き皆様方のご支援、ご協力をお願いいたします。

寄付に関する問い合わせは、日本対がん協会企画・事業担当まで。電話03-5218-4771(代表)

はいい座布団一枚！

女性検診に女性職員パワー全開

香川県支部は女性職員と男性職員の比率が7対3。管理職も事務局長の私と課長合わせて6人のうち半数が女性だ。支部の強みを最大限発揮するには、女性らしい知恵と工夫をいかに引き出すかが大きなカギを握る。その点、女性が得意な他愛もない雑談からアイデアが出てくることも多い。

当支部は検診車で集団検診のみなので、車の改善が極めて重要だ。

2台目の乳がん検診車導入が決まった2010年も、「私たちがこの車で検診を受けてみたいと思えるような車がいよいよね」という話が始まりだった。さ



ハートフル号の前で

っそく自分達で外装デザインを考えることになり、毎日毎日いやになるほど話し合った。そしてでき上がったのが、コスモスの花を流れるような曲線で散らした優しい検診車だった。

子宮頸がんの検診車も大変身した。こちらは若い人に検診に来てもらおうと2013年に外装デザインを公募。それまでの少し古ぼけた外観は、車全体をハートマークでラッピングすることでかわいらしいイメージに生まれ変わった。併せて車の名前も小豆島名産の県木「オリーブ号」から「ハートフル号」に。

乳がん検診車の時は外装を考えたので、今度は内装を自分たちですることにした。手芸店で探してきたシールを張ってお花畑のイメージにしたり、検診中にクラシック音楽を流したりして、気持ちの和らぐ車内になった。

その車が活躍したのが女子大生の検診デビューだ。昨年暮れ、高松市が県立保健医療大学の女子大生を対象に「お・と・

香川支部から

香川県総合健診協会事務局長 網本琴美

な力アップ講座」を開くことを聞きつけた。講座では子宮がんの話もあるとのこと。「それなら彼女たちにも子宮頸がん検診を受けてもらったらいいじゃない」という話になり、大学に頼んで実現にこぎつけた。

当日はスタッフの数を増やし、母親が娘に話をするように、検診の大切さを伝えた。学生からは「丁寧に説明してもらったので安心して受診できた」「思っていたより簡単だった」など、次回の検診につながる声をもらった。

これからも女性目線で、自分達が受けた、受けさせたい、受けて良かった、と思えるような検診環境づくりを目指していきたい。

(あみもと ことみ 1980年前身の香川県ガン予防協会入社。1993年香川県総合健診協会。総務課長補佐、検診課長を経て2014年より現職)



2013年度 がん検診の実施状況から ◇肺がん

■全体 男女合計

	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検受診者数 (C)	精検の結果					異常なしの人数 (E)	がん発見率 (D/A)	陽性反応 的中率 (D/B)
				がん(D)	がん疑い	がん以外の 疾患	異常なし	その他の結果			
北海道	95,237	2,250	2,080	95	0	1,323	662	0	92,987	0.10%	4.22%
青森	86,664	2,041	1,756	44	58	873	670	111	84,623	0.05%	2.16%
岩手	33,991	468	410	12	2	219	176	1	33,523	0.04%	2.56%
宮城	16,659	23	20	6	5	2	4	3	16,636	0.04%	26.09%
秋田	63,587	1,931	1,645	49	14	0	772	810	61,656	0.08%	2.54%
山形	77,656	3,364	2,582	54	42	1,358	1,128	0	74,292	0.07%	1.61%
福島	216,203	3,124	2,572	74	48	865	1,415	128	213,079	0.03%	2.37%
茨城	214,973	6,807	5,793	153	15	2,158	2,958	509	208,166	0.07%	2.25%
栃木	68,497	1,469	1,195	19	64	624	468	0	67,028	0.03%	1.29%
群馬	120,645	1,177	1,025	88	40	624	273	0	119,468	0.07%	7.48%
埼玉	48,240	812	643	10	22	180	299	132	47,428	0.02%	1.23%
千葉	216,225	4,046	2,602	87	50	1,597	843	2	212,179	0.04%	2.15%
新潟	223,967	6,509	5,618	135	237	42	2,556	2,648	217,458	0.06%	2.07%
山梨	23,203	609	489	6	11	269	190	13	22,594	0.03%	0.99%
長野	54,999	2,488	1,420	27	39	592	696	66	52,511	0.05%	1.09%
富山	3,505	105	93	6	1	28	9	49	3,400	0.17%	5.71%
石川	26,649	425	355	12	2	143	180	18	26,224	0.05%	2.82%
福井	53,142	2,541	1,944	63	0	531	867	483	50,601	0.12%	2.48%
愛知	27,369	510	320	11	6	216	87	0	26,859	0.04%	2.16%
三重	65,569	312	217	14	7	101	95	0	65,257	0.02%	4.49%
滋賀	10,282	310	290	5	7	139	81	58	9,972	0.05%	1.61%
京都	21,834	583	178	3	4	97	73	1	21,251	0.01%	0.51%
兵庫	224,479	2,567	1,684	74	36	1,068	506	0	221,912	0.03%	2.88%
奈良	2,372	52	24	0	1	15	8	0	2,320	0.00%	0.00%
和歌山	52,845	631	438	3	8	219	199	9	52,214	0.01%	0.48%
鳥取	29,286	1,272	1,090	27	52	569	440	2	28,014	0.09%	2.12%
島根	41,269	1,321	1,090	10	73	523	479	5	39,948	0.02%	0.76%
岡山	124,534	2,271	1,628	28	71	1,048	461	20	122,263	0.02%	1.23%
広島	23,526	1,164	1,000	26	13	652	292	17	22,362	0.11%	2.23%
山口	24,578	1,252	657	21	0	392	236	8	23,326	0.09%	1.68%
徳島	30,698	771	654	26	26	386	194	22	29,927	0.08%	3.37%
香川	76,972	1,675	1,541	78	17	811	466	169	75,297	0.10%	4.66%
愛媛	63,973	1,089	988	48	79	665	196	0	62,884	0.08%	4.41%
高知	113,580	1,424	1,170	51	60	739	320	0	112,156	0.04%	3.58%
福岡	50,794	1,813	1,585	38	12	573	625	337	48,981	0.07%	2.10%
佐賀	29,889	628	541	7	40	306	187	1	29,261	0.02%	1.11%
長崎	44,136	921	812	27	20	532	228	5	43,215	0.06%	2.93%
熊本	79,586	319	272	24	7	138	103	0	79,267	0.03%	7.52%
大分	29,627	845	627	16	6	378	215	12	28,782	0.05%	1.89%
宮崎	48,904	994	928	55	31	642	166	31	47,910	0.11%	5.53%
鹿児島	158,014	2,251	270	2	16	208	44	0	155,763	0.00%	0.09%
沖縄	425	3	0	0	0	0	0	0	422	0.00%	0.00%
合計	3,018,583	65,167	50,246	1,534	1,242	21,845	19,867	5,670	2,953,416	0.05%	2.35%

2013年度 がん検診の実施状況から ◇大腸がん

■男女合計

	受診者数 (A)	要精検者数 (B)	精検受診者数 (C)	精検の結果							異常なしの人数 (E)	がん発見率 (D1+D2)/A	陽性反応 的中率 (D1+D2)/B
				がん			がん疑い	がん以外の 疾患	異常なし	その他の結果			
				粘膜内がん (M) (D1)	がん(M以外) (D2)	分類不明と (D1+D2)							
北海道	124,111	9,610	8,277	77	336	413	2	4,864	2,299	699	114,501	0.33%	4.30%
青森	98,139	5,449	4,288	58	83	141	61	2,917	984	185	92,690	0.14%	2.59%
岩手	122,957	6,608	5,289	131	121	252	0	3,434	1,600	3	116,349	0.20%	3.81%
宮城	60,224	2,983	2,681	47	106	153	0	1,654	874	0	57,241	0.25%	5.13%
秋田	67,689	4,703	3,561	136		136	18	2,163	1,227	17	62,986	0.20%	2.89%
山形	122,720	7,340	5,465			152	15	3,075	2,223	0	115,380	0.12%	2.07%
福島	117,727	9,078	6,411	60	99	159	6	3,748	2,253	138	108,649	0.14%	1.75%
茨城	160,041	11,348	8,154	130	151	281	35	5,945	1,893	0	148,693	0.18%	2.48%
栃木	69,166	4,112	2,928	59	33	92	26	2,064	713	0	65,054	0.13%	2.24%
群馬	33,099	1,568	1,224	31	42	73	0	778	373	0	31,531	0.22%	4.66%
埼玉	19,234	1,998	1,289	16	41	57	3	791	402	36	17,236	0.30%	2.85%
千葉	116,324	7,338	4,347	42	106	148	10	2,691	1,130	0	108,986	0.13%	2.02%
新潟	123,444	6,953	5,908		309	309	31	3,092	2,010	466	116,491	0.25%	4.44%
山梨	15,504	844	504	3	25	28	1	309	149	17	14,660	0.18%	3.32%
長野	107,073	6,819	4,501			183	0	2,573	1,558	187	100,254	0.17%	2.68%
富山	34,581	2,003	1,357	28	35	63	2	936	356	0	32,578	0.18%	3.15%
石川	26,463	1,962	1,460	35	43	78	1	1,009	363	9	24,501	0.29%	3.98%
福井	54,054	2,848	2,037	62	49	111	0	1,370	514	42	51,206	0.21%	3.90%
愛知	12,441	900	522	8	8	16	5	311	190	0	11,541	0.13%	1.78%
三重	25,044	1,543	869	12	34	46	0	454	343	26	23,501	0.18%	2.98%
滋賀	14,485	978	807	16	12	28	0	582	180	17	13,507	0.19%	2.86%
京都	75,204	5,630									69,574		
兵庫	84,385	3,219	1,407			43	0	969	374	0	81,166	0.05%	1.34%
奈良	1,188	81	73			1	0	57	14	1	1,107	0.08%	1.23%
和歌山	21,209	1,370	597	7	14	21	0	396	166	14	19,839	0.10%	1.53%
鳥取	39,130	2,851	1,716		50	50	2	1,035	609	20	36,479	0.13%	1.89%
島根	47,464	2,067	1,260			80	9	692	394	85	45,397	0.17%	3.87%
岡山	31,479	2,594	1,535			25	7	1,096	356	47	28,885	0.08%	0.96%
広島	30,860	2,554	1,818	36	52	88	0	1,178	470	82	28,306	0.29%	3.45%
山口	46,369	2,488	1,012			22	0	574	330	86	43,881	0.05%	0.88%
徳島	23,992	2,230	1,478	25	14	39	5	1,002	415	17	21,762	0.16%	1.75%
香川	19,629	1,109	929	11	21	32	0	665	232	0	18,520	0.16%	2.89%
愛媛	71,134	4,180	3,198	18	67	85	8	1,954	1,083	68	66,954	0.12%	2.03%
高知	66,667	2,479	1,740	32	66	98	0	1,159	483	0	64,188	0.15%	3.95%
福岡	73,841	4,253	2,780	44	69	113	3	1,928	725	11	69,588	0.15%	2.66%
佐賀	25,749	1,918	1,501			38	6	1,057	390	10	23,831	0.15%	1.98%
長崎	38,373	2,758	2,071			67	41	1,385	578	0	35,615	0.17%	2.43%
熊本	53,774	3,581	2,553	26	26	52	0	1,774	727	0	50,193	0.10%	1.45%
大分	23,875	1,653	1,363	30	31	61	1	983	318	0	22,222	0.26%	3.69%
宮崎	24,138	1,605	1,214	13	17	30	0	762	379	0	22,533	0.12%	1.87%
鹿児島	56,704	3,934	3,116	50	52	102	9	2,282	723	0	52,770	0.18%	2.59%
沖縄	42,304	2,721	1,545	13	32	45	7	0	427	0	39,583	0.11%	1.65%
合計	2,421,988	152,060	104,785	1,257	2,144	4,011	314	65,708	30,827	2,283	2,269,928	0.17%	2.64%

2015年度 ピンクリボンフェスティバル概要決定

～大切な人のために、まずあなたを、大切にしてください。～

エリア	啓発事業	開催日	会場	主な出演者	専門医
東京	記者発表会	10月 1日(木)	浜離宮朝日ホール 小ホール		
	オープニングナイト 夏木マリ ライブ&トーク	10月 1日(木)	浜離宮朝日ホール	夏木マリ	
	スマイルウオーク	10月 3日(土)	六本木ヒルズ アリーナ	山田邦子	山内英子 (聖路加国際病院)
	シンポジウム	10月 4日(日)	有楽町朝日ホール	岸本葉子	中村清吾 (昭和大学)ほか
大阪	関西セミナー	10月 18日(日)	グランフロント大阪 ナレッジシアター	柴門ふみ	玉木康博 (大阪府立成人病センター)ほか
京都	シンポジウム	10月 24日(土)	京都劇場	アグネス・チャン	小西郁生 (京都大学)ほか
神戸	シンポジウム	10月 25日(日)	神戸新聞 松方ホール	山崎多賀子	岩瀬拓土 (がん研有明病院)ほか
仙台	スマイルウオーク	10月 31日(土)	勾当台公園 市民広場	宮川花子 宮川大助	未定
神戸	スマイルウオーク	11月 7日(土)	東遊園地	三船美佳	岩田広治 (愛知県がんセンター中央病院)

※ 出演者、ゲスト、専門医等は変更になる場合もあります。

乳がんの早期発見の大切さや、乳がんサバイバーを支援できる社会の構築を目指して、今年度もピンクリボンフェスティバル(日本対がん協会、朝日新聞社ほか主催)を各地で開催する。

現在、日本人女性が生涯で乳がんにかかる確率は12人に1人とわれ、昨年は1万3千人以上が命を失った。早期に発見すれば90%以上が治る病気であるにもかかわらず、検診の受診率は国が目標とする50%にもまだまだ及ばない状況だ。

フェスティバルでは、乳がんについての正しい知識を伝えながら、早期発見のため「40歳から2年に1度のマンモグラフィー検診の受診」を呼びかける。また、9万人近いサバイバーを支援するために、最新の治療情報や闘病に役立つノウハウなども伝えている。

今年も、10月1日に各地で街頭キャンペーン、ピンクライトアップを行うほか「オープニングナイト」を開催。長年、ピンクリボンネイルアートコレクションに協力いただいている夏木マリさんにライブやトークを通じて、命の大切さや生きる喜びについて伝えてもらい、ピンクリボン月間の皮切り

とする。

スマイルウオークは、東京、仙台、神戸の3都市で開催。10周年記念大会となる仙台には胃がんを経験した宮川花子さんが夫の大助さんと出演し、トークショーで夫婦での闘病体験を語る。

シンポジウム、セミナーは、東京、神戸、大阪、京都の4都市で。専門医による最新治療情報、ゲストの体験談のほか、精神腫瘍医による「心のケア」についての講演も盛り込んだ(3面に**関連記事**)。京都は第53回日本癌治療学会の開催にあたり市民向けに展開される「Cancer Month Kyoto2015」の一環として実施する。神戸では、美容ジャーナリストの山崎多賀子さんが、自らの体験を語るほか、患者向けにメ

イクの力で元気になるヒントも披露する。

映像の力で乳がん検診の大切さを伝える「ムービーサプライ」は、第1弾の啓発映像が公開中だ。パペットの「パイ田姉妹」が登場し、笑いを誘いながら検診受診を訴える。

第11回ピンクリボンデザイン大賞には、コピー部門、ポスター部門に合計で1万5千点を超える作品が寄せられた。7月中旬に審査を終え、10月1日にグランプリ作品を発表する。

ピンクリボン乳がん検診の受診や、早期発見の大切さを伝える「気づき」と「行動」のための活動だ。今年度も多くの人にご参加いただきピンクリボンのメッセージを伝えたい。



昨年のスマイルウオーク東京大会



ムービーサプライ第1弾に登場する「パイ田姉妹」